

氏 名 すず き よう こ 鈴木 洋 子



所 属 ・ 職 名 生活科学教育講座（家庭科教育）・教授

研究室電話番号 0742-27-9250
（ダイヤルイン・FAX 兼用）

電子メールアドレス suzukiy@nara-edu.ac.jp

最終学歴及び学位 横浜国立大学教育学研究科修士課程家政教育専攻修了
博士（栄養学）、教育学修士

所 属 学 会 等 日本家庭科教育学会，日本教科教育学会，
International Federation for Home Economics

専 門 分 野 家庭科教育学

研究と教育について

早期からの食育の必要性和学習環境の整備のための研究に取り組んでいます。環境整備の一環として子どもの手指の大きさに適した包丁を開発し、製品化しました。一般に市販されている子ども用包丁に比べると、重さがあり、柄の太いのが特徴です。このため、切断時の力の負担が軽減されます。

包丁に替わり、フードプロセッサーやスライサーなどの簡便な道具も売られていますが、包丁技能をはじめとする調理技能の習得は、食生活に関する知識の獲得の動機付けの役割を果たします。また、調理技能の習得は、食に関する知識の行動化に不可欠な要素であり、食生活に対する改善意識を育む基盤であります。家事労働の社会化が進み、家庭内で素材から物を作り上げる必要性が減少する現今に生きる子どもたちの食行為に、自らの手を使ったかわわりを意図的に持たせることは、学校教育の役割であり、生きる力を育成する上での根幹であると考えています。

主 な 研 究 業 績

- ・小学校低・中学年における食育の現状と課題 - 生活科，総合的な学習の時間，特別活動における調理の扱い - ，日本教科教育学会誌第 28 巻 3 号 1-8 頁，2005
- ・包丁技能習得のための被切断物の大きさ，日本家政学会誌，Vol.55 No.9 53-61 頁，2004
- ・Relationship between the curriculum system and understanding of nutritional terms in elementary school children, International Journal of Consumer studies, Vol.26, No.24, pp249-255, 2002
- ・小学校家庭科における食物学習の動向，日本教科教育学会誌第 25 巻 3 号 11-17 頁，2002
- ・児童が使いやすい包丁の大きさと重さの選定，日本官能評価学会誌第 4 巻 2 号 19-24 頁，2000

主な授業担当科目

初等教科教育法家庭（教員養成課程），中等教科教育法家庭Ⅰ（教員養成課程），総合演習「食育と共生」（教員養成課程），家庭科教育学特論（大学院），家庭科授業研究（大学院）

学 会 活 動 日本家庭科教育学会近畿地区会副会長

社 会 的 活 動 なら健康増進戦略会議・生活習慣病予防（子ども対策）部会委員

講 演 の テ ー マ 「クッキングからはじめる食育」，「こどもの食育環境を考える」，「世界の食卓から我が家の食卓を考える」，「家庭科教育における食生活学習の扱い」